

5 外来植物モニタリング調査

(R 6 立山植生モニタリング調査報告書より 原文を抜粋)

太田道人・吉田めぐみ・山下寿之

1.5.1 これまでの経緯

1970年に立山黒部アルペンルートが全線開通して以来、車両や観光客の増加とともに沿線に侵入した外来植物種が多数記載されてきた（大田ほか 1983, 立山ルート緑化研究委員会専門委員会 2000,2008,2009, 吉田ほか 2002, 太田 2006, 山下ほか 2008,2009, 立山ルート緑化研究委員会事務局 2010,2011,2012, 2014,2015,2016,2020,2021,2022,2023, 2024,岩坪ほか 2012）。外来植物の侵入・繁茂・除去活動等の経緯については、松久（2005）と長井（2006）が詳しくまとめており、太田（2006）では62種の外来植物が除去対象とされた。

富山県生活環境部自然保護課は、平成20年度～21年度にかけて「立山外来植物除去対策検討会」を設置し、沿線の外来植物の侵入状況を46の定点調査に基づいて除去対象種の再検討と侵入防止策・除去体制の構築等を行った（立山外来植物除去対策検討会 2010）。この中で、外来種の生育状況を除去活動にすみやかに反映させていくため、モニタリングを継続させていくことが望まれており、本調査はこれを受け継いで平成22年度から実施しているものである（立山植生研究会 2011,2012,2013,2015,2016,2017,2018,2019,2021,2022,2023,2024, 石田編 2014,2020）。

参考文献

- 浅井元朗（2015）植調 雑草大鑑. 357pp. 全国農村教育協会.
- 石田仁編（2014）環境変動と立山の自然（Ⅲ）—立山植生モニタリング調査成果報告書—. 195pp. 富山県.
- 石田仁編（2020）環境変動と立山の自然（Ⅳ）—立山植生モニタリング調査成果報告書—. 203pp. 富山県.
- 岩坪美兼・新田雅志・宮下啓子・上田有美・太田道人・城賀津樹（2012）立山ルート沿線のオオヨモギの多様性と雑種の分布. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成23年度）13：14-16.
- 松久卓（2005）アルペンルートにおける帰化植物等の現況と除去. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成15年度）6：1-5.
- 長井真隆（2006）立山に外来植物が侵入してきた背景. 立山黒部アルペンルート外来植物現況報告書. pp.1-8. 環境省中部地方環境事務所・富山県・立山ルート緑化研究委員会専門調査部会.
- 大田弘・小路・長井（1983）富山県植物誌. 広文堂.富山.430pp.
- 太田道人（2006）.外来植物除去の優先順位. 立山黒部アルペンルート外来植物現況報告書. pp.16-21. 環境省中部地方環境事務所・富山県・立山ルート緑化研究委員会専門調査部会.
- 立山外来植物除去対策検討会（2010）立山外来植物除去対策検討会報告書. 153pp.富山県.
- 立山植生研究会（2011）平成22年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 112pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会（2012）平成23年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 110pp. 立山植生研

研究会.

- 立山植生研究会 (2013) 平成 24 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 110pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2015) 平成 26 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 107pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2016) 平成 27 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 91pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2017) 平成 28 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 116pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2018) 平成 29 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 110pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2019) 平成 30 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 140pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2021) 令和 2 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 91pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2022) 令和 3 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 112pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2023) 令和 4 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 97pp. 立山植生研究会.
- 立山植生研究会 (2024) 令和 5 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 113pp. 立山植生研究会. 立山ルート緑化研究委員会専門委員会 (2000) 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 11 年度) 1 : 6-9.
- 立山ルート緑化研究委員会専門委員会 (2008) 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査 7 および室堂平アルペンルート建設工事用道路跡緑化試験報告 2. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 19 年度) 9 : 23-30.
- 立山ルート緑化研究委員会専門委員会 (2009) 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査 8 および室堂平アルペンルート建設工事用道路跡緑化試験報告 3. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 20 年度) 10 : 9-14.
- 立山ルート緑化研究委員会専門委員会 (2011) 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査 9 および室堂平アルペンルート建設工事用道路跡緑化試験報告 4. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 22 年度) 12 : 14-20.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局 (2010) アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 21 年度) 11 : 30-33.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局 (2011) アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 22 年度) 12 : 21-24.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局 (2012) アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 23 年度) 13 : 17-19.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局 (2013) アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報 (平成 24 年度) 14 : 22-24.

- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2014）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成 25 年度）15 : 35-37.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2015）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成 26 年度）16 : 27-29.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2016）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成 27 年度）17 : 11-13.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2020）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和元年度）18 : 25-32.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2021）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和 2 年度）19 : 15-17.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2022）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和 3 年度）20 : 7-9.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2023）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和 4 年度）21 : 18-20.
- 立山ルート緑化研究委員会事務局（2024）アルペンルート沿線施設外来植物除去報告. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和 5 年度）22 : 14-17.
- 山下寿之・太田道人（2018）立山アルペンルート沿線における外来種除去の経緯と実績. 立山ルート緑化研究報告書第 4 報 pp.101-116. 立山黒部貫光・立山ルート緑化研究委員会.
- 山下寿之・太田道人・吉田めぐみ（2024）立山アルペンルート外来植物 15 年間の変化とこれからの課題. 立山ルート緑化研究委員会年報（令和 5 年度）22 : 1-13.
- 山下寿之・吉田めぐみ・大沼進（2008）立山自然保護センターで採取した靴底土から発芽した植物. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成 19 年度）9 : 1-4.
- 山下寿之・吉田めぐみ・富永宣宏（2009）室堂平における外来植物種の侵入状況と除去効果. 立山ルート緑化研究委員会年報（平成 20 年度）10 : 6-8.
- 吉田めぐみ・高橋一臣・加藤治好(2002) 立山室堂平の維管束植物相.立山室堂平周辺植物調査報告書-1999-2000.富山県立山センター.

2.5 立山アルペンルート外来植物モニタリング調査

2.5.1 調査区および方法

対象区域は「立山外来植物除去対策検討会」で実施した弘法（標高 1610m）から室堂平（標高 2457m）の 46 調査区とした（表 2-5-1a）。各年の調査対象区は区域全体を 3 分割した 1 区域ずつとした（表 2-5-1b）。令和 6 年度は室堂平調査区域の室堂ロータリーからミドリガ池広場までの 17 調査区の外来植物の出現状況に加え、毎年実施している弥陀ヶ原遊歩道沿いの 5 調査区の外来植物出現状況を調査した。

表 2-5-1a 立山黒部アルペンルート沿線外来植物種調査対象エリア

No.	エリア		標高	No.	エリア		標高
1	弘法	弘法第1駐車場	1610	29	室堂	室堂ロータリー	2418
2		弘法第2駐車場	1620	30		立山センター車道	2428
3	追分	追分駐車場(立土)	1810	31		立山センター周囲	2470
4		追分駐車場(松尾峠入口)	1840	32		室堂ターミナル園地	2430
5		追分料金所緑化帯	1860	33		室堂平広場遊歩道	2431
6	弥陀ヶ原	弥陀ヶ原駐車場	1900	34		室堂平広場遊歩道	2437
7		六甲学院前(緑化復元地)	1900	35		供養塔広場	2437
8		弥陀ヶ原バス停周囲	1950	36		みくりが池展望台	2434
9		弥陀ヶ原ホテル駐車場	1940	37		みくりが池遊歩道	2420
10		弥陀ヶ原散策路入口	1932	38		地獄谷への道	2390
11		弥陀ヶ原ホテル裏	1940	39		室堂山荘遊歩道	2438
12		弥陀ヶ原立山荘入口	1955	40		室堂山荘遊歩道	2449
13		弥陀ヶ原カルデラ展望台入口	1980	41		室堂山荘横	2457
14	美松	美松駐車場	2090	42		玉殿岩屋への道	2450
15	天狗	天狗の鼻第1駐車場下	2125	43		エンマ台	2413
16		天狗の鼻第2駐車場	2130	44		ミドリガ池遊歩道	2420
17		立山高原ホテル浄化槽	2300	45		ミドリガ池遊歩道	2435
18		立山高原ホテル周囲	2300	46	ミドリガ池広場	2435	
19		立山高原ホテル～天狗平山荘	2305				
20		天狗平山荘周囲	2305				
21		天狗平駐車場	2310	51	弥陀ヶ原	弥陀ヶ原遊歩道 ホテルと休憩所の間地点	1930
22		天狗平休憩所跡地	2315	52		弥陀ヶ原遊歩道ガキの広場上部	1920
23		天狗平歩道起点	2320	53		弥陀ヶ原遊歩道ガキの広場下部	1910
24		国見第1駐車場	2360	54		弥陀ヶ原遊歩道内回り分岐点から各5m	1895
25	国見第2駐車場	2370	55	弥陀ヶ原遊歩道外回り分岐点各10m	1863		
26	国見	大谷待避所	2390				
28		室堂第2駐車場	2410				

表 2-5-1b 調査対象区域とその調査年

調査対象区域	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
No.1～13 弘法～弥陀ヶ原	○			○			○			○			○		
No.14～28 美松～室堂第 2 駐 車場		○			○			○			○			○	
No.29～46 室堂平			○			○			○			○			●
No.51～55 弥陀ヶ原遊歩道				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

令和 6 年 8 月 20 日・21 日に各調査区において、出現種ならびに出現状況を「立山外来植物除去対策検討会」(表 2-5-1c) にしたがって判定した。判定基準が視覚的でゆるやかなものになっているのは、もともと各調査区が道路や駐車場等、人為の影響の強く及んだ地点に設定されたもので、植生の均質性を欠き植物社会学的な優占度(被度)の推定にはなじまないためであり、また、大まかな量的変化をとらえることを目的としているためである。

表 2-5-1c 外来植物の生育状況判定基準

階級	生育状況
5	びっしり面的に広がっている
4	かたまりがいくつか存在する
3	かたまりがある
2	捜さなくても目に入る
1	捜せば目に入る

3.5 立山アルペンルート外来植物モニタリング調査

3.5.1 各調査区における外来植物の出現状況

今回調査対象とした 22 調査区全体から（表 3-5-1-1）、外来植物は 32 種記録され、出現頻度が大きかったのは、ゴマナ（18ヶ所）、スズメノカタビラ（18ヶ所）、イタドリ（15ヶ所）、セイヨウタンポポ（13ヶ所）、雑種ヨモギ（11ヶ所）オオウシノケグサ（9ヶ所）であった。ゴマナの出現箇所は前回 R3 年と同じ箇所数、スズメノカタビラは 19ヶ所から 18ヶ所へと 1ヶ所減少した。

表 3-5-1-1 令和 6 年度調査区全体での外来種出現状況

調査地 調査区No.	室堂平																弥陀ヶ原遊歩道					頻度	
	29	30	31	32	33	34	35	36	37	39	40	41	42	43	44	45	46	51	52	53	54		55
種数	11	10	14	10	10	6	3	4	11	5	7	3	1	6	6	11	7	2	18	12	1	1	
アライドツメクサ	1		3		1						1					1							5
イ																						1	1
イタドリ	3	3	1	1	1	1			1	1	1	1		1	1	1			2	1			15
アイタドリ	1			1															1				3
エゾノギシギシ																	1		1				2
オオイタドリ	1																1						2
オオウシノケグサ	1	1	3	1	1				1					2	2	1							9
オオバコ			2	1	1				1							1			1	1			7
オノエヤナギ			1													1	1		1	1			5
外来ミミナグサ (キオン)		1	1						1							1			1	2			6
キバナカワラマツバ																				1			1
クサイ																			1				1
ゴマナ	2	1	2	1	1	1		1	1	1	1			1	1	1	1	1	2	1	1		18
シロツメクサ			3		1														1				3
スギナ				2		1	1				1								1				5
ススキ																			1				1
スズメノカタビラ	1	1	3	2	1	1	2	1	1	1	1	3		2	2	2	1		1	1			18
セイヨウタンポポ	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1		1			1							13
ゼニゴケ																				1			1
タチオランダゲンゲ			2																				1
タニウツギ																		1	1				2
ツボスミレ																			1				1
ドロノキ																			1	1			2
ノアザミ														1									1
(バッコヤナギ)									1										1				2
バッコオノエヤナギ	1	1														1				1			4
(ハンゴンソウ)									1	1													2
ヒヨウタンゴケ																			1	1			2
フキ	2	1	2												1	1							5
ミスジナガハグサ			1	2	2	1					1												5
(ヤマアゼスゲ)																	2						1
ヤマホタルブクロ									1														1
ヨモギ									1														1
雑種ヨモギ	3	2	1	1	1	1					1			1	1				1	1			11

室堂平の 18 調査区（火山ガスの影響で H24 年以降は 17 調査区）における平成 21 年度以降の外来植物出現頻度の経年変化を表 3-5-1-2 に示した。今回新たに記録された種はなく、前回室堂山荘前で一株確認されたアヤメ属の一種はその翌年から見られなくなり、今回も確認されなかった。

平成 21 年以降継続的に出現している種は 11 種あり、このうち出現頻度 9（50%）以上を記録した種はスズメノカタビラ、セイヨウタンポポ、イタドリ、オオウシノケグサ、ゴマナ、雑種ヨモギの 6 種であった。セイヨウタンポポは R3 年までは増加していたが、今回はやや減少しており、除去作業の成果が少し出ているのではないかと考えられる。ゴマナ、雑種ヨモギは増加傾向にあ

る。

表 3-5-1-2 室堂ロータリー～ミドリガ池園地（17カ所）における外来植物出現頻度の経年変化

種名	H21*	H24	H27	H30	R3	R6	コメント
スズメノカタビラ	15	16	17	16	17	16	定着
セイヨウタンポポ	13	11	8	11	14	13	定着・やや減少
イタドリ	11	12	11	14	13	13	定着
オノエヤナギ	9	5	3	6	4	3	定着・減少
オオバコ	6	2	2	6	5	5	定着
フキ	5	5	5	4	5	5	定着
外来ミミナグサ	4	5	4	2	4	4	定着
スギナ	4	4	4	2	3	4	定着
エゾノギシギシ	4	2	3	4	1	1	定着・減少
オオウシノケグサ	1	7	3	10	10	9	定着
シロツメクサ	1	2	2	2	2	2	定着
ノアザミ	4	3	2	—	—	1	外来種に再指定
スイバ	11						消滅
セイヨウオダマキ	2						除去消滅
エゾノミツモトソウ	1						自然消滅か
スカンタゴボウ	1						除去消滅
フランスギク	1						除去消滅
ヒメジョオン	1						除去消滅
ヨモギ		14	2	1		1	除去消滅
ゴマナ		9	15	11	14	14	定着・増加
ミスジナガハグサ		3	3	5	4	5	定着
オオイタドリ		3	2	3	2	2	定着
バッコオノエヤナギ		1	6	6	4	3	定着・減少 H30はアカメヤナギと同定
ヤマホタルブクロ		1	1	1	1	1	定着
スイバ×タカネスイバ		1	3				
キバナカワラマツバ		1	1				除去消滅か
オニウシノケグサ		1					消滅
ノコンギク		1					消滅
雑種ヨモギ			9	7	8	9	定着
クサイ			3				
アイイタドリ			2	2		2	再出現
雑種セイヨウタンポポ			1	1			除去消滅か
クルマバナ			1	1	1		消滅
ツメクサ			1	1			定着
タチオランダゲンゲ			1		1	1	増加
ヨシ?			1				
アライドツメクサ					1	5	定着・急激に増加
アヤメ属の一種					1		消滅
種数	18	22	30	25	21	22	

今回の調査で急激な増加を示したのがアライドツメクサである。アライドツメクサは H21 年に国見第 1 駐車場で初確認された後、生育地を拡大し、R1 年 9 月に立山センター前の石畳の目地部および周囲で見られるようになり、R2 年には天狗平の 6 調査区で確認された。いずれの地点も一般客が普通に入る場所ではないことから、業務用車両や関係者に種子等が付着して運ばれたものと考えられる。室堂平では、R3 年調査時には立山センター周辺 1ヶ所のみ

の確認であったが、今回は 5ヶ所と急激な分布拡大を示した。また今回の調査範囲外ではあるが、国見第1駐車場付近の道路側溝内に大きな群落が多数見られ、雨水や風などで種子が自然植生内へ散布されており、早急に除去を進め影響を小さくする必要がある。

昨年調査（立山植生研究会 2023）に引き続き、畑地雑草のを見つけやすさの図の一部を更新した（図 3-5-1-b）。更新部分は、全調査区のうち調査区 No.29~46 の範囲である。比較のため前年のものを図 3-5-1-a に再掲した。畑地雑草として扱う種および生育状況の判定値から準植被率への変換方法は、立山植生研究会（2022）と同じとした。

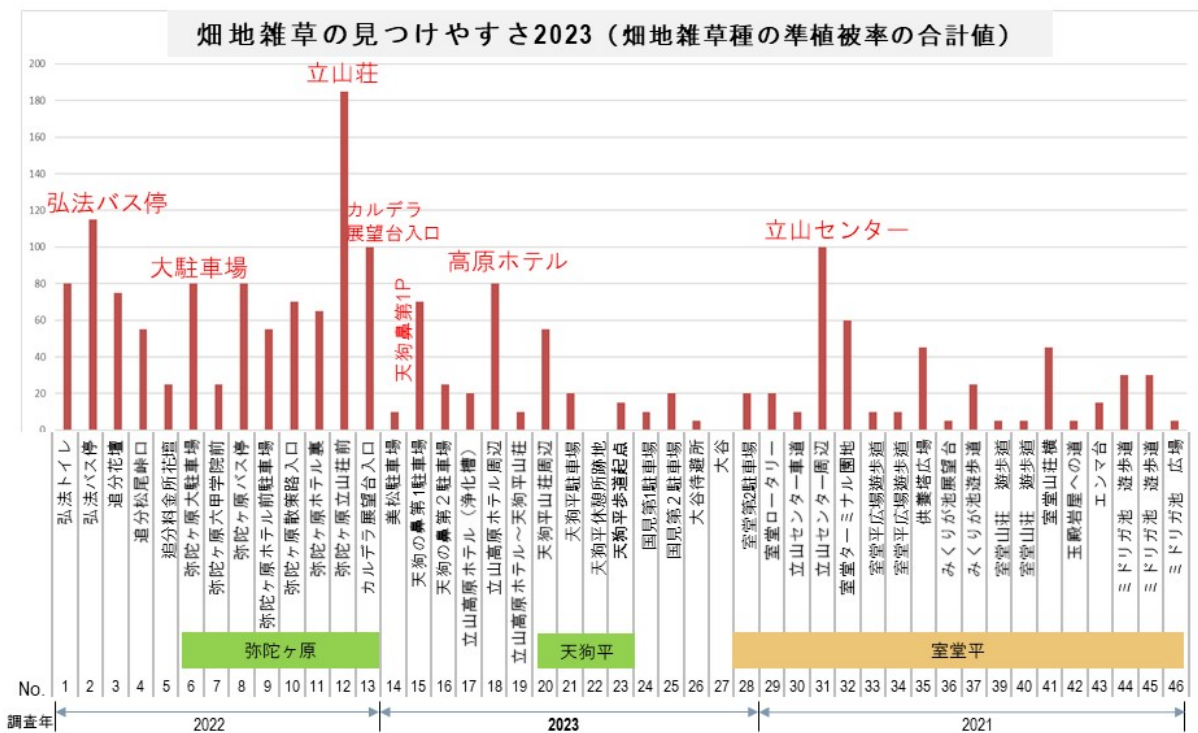
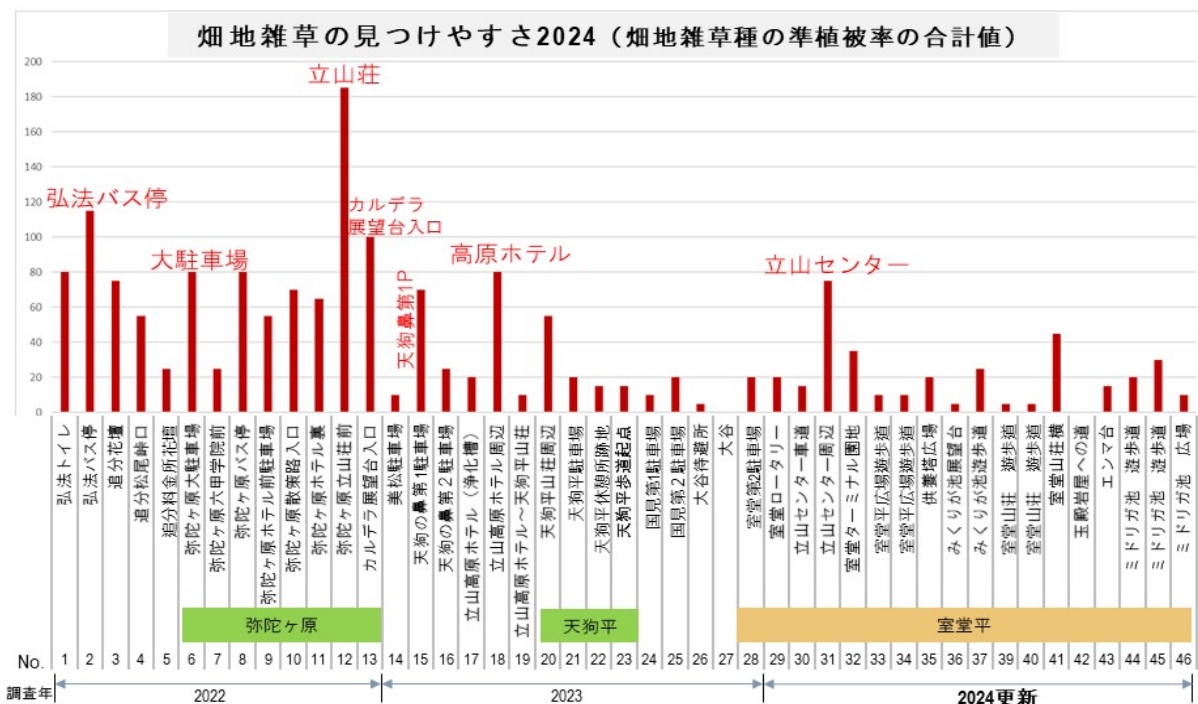


図 3-5-1-a 畑地雑草種のみつけやすさ 2023 調査区 No.1-13 の調査年は 2022 年、No.14-28 は 2023 年、No.29-46 は 2021 年。



*畑地雑草：イヌガラシ エゾノギシギシ オオバコ 外来ミミナグサ コナスビ スカシタゴボウ スギナ スズメノカタビラ
 タニソバ ツメクサ ノボロギク ハルジオン ヒメジョオン フキ *準植被率：見つけやすさの度合いを植被率に近似。

図 3-5-1-b 畑地雑草種のみつけやすさ 2024 調査区 No.29-46 が今回更新した部分。

図 3-5-1-a、3-5-1-b から、畑地雑草のを見つけやすい区域は、弘法から天狗平下部であり、天狗平上部から立山センターを除く室堂平ではあまり目立たないことが分かる。

今回更新した室堂平部分を前回のものと比較すると、立山センター周辺（調査区 No.31）と供養塔広場（No.35）のグラフが低くなっている。これらは、スズメノカタビラの出現状況の値が小さくなったことによるものであるが、2024年夏は気温の相当高い状態が長く続いたことにより、バラス敷きの広場や駐車場など乾燥しやすい場所ではスズメノカタビラの生長が止まるか地上部が枯れたことによる結果だと推定される。ただし、立山センター周辺は、アライドツメクサやゴマナ、シロツメクサなど畑地雑草以外の外来種の生育面積が増加していることから（表 3-5-1-6）、これらに押される形でスズメノカタビラがさらに目立たなくなったものと考えられる。

準植被率の合計値が 50 を超えている立山荘（No.12）、弘法バス停（No.2）、彌陀ヶ原大駐車場（No.6）、カルデラ展望台入口（No.13）、高原ホテル（No.18）、立山センター周辺（No.31）に共通する畑地雑草侵入要因は、業務車両の低地からの直接乗り入れであることが強く疑われる。

弥陀ヶ原遊歩道の5調査区におけるH25年以降の外来植物出現頻度の経年変化を表3-5-1-3に示した。

表 3-5-1-3 弥陀ヶ原遊歩道の5調査区における外来植物出現頻度の経年変化

種名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	出現回数	コメント
アイイタドリ		1	1	1		1	1	1	1	2	1	1	10	定着・減少
イグサ				1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	定着
イタドリ	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	12	定着・除去実施
エゾノギンギシ		2	1	1		1	1	1	1	1	1	1	10	定着・除去実施
オオイタドリ		1	1	1	1	1	1						6	除去実施
オオバコ	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12	定着
オノエヤナギ				1	1	1	1	1	1	2	2	2	9	定着・増加
バッコオノエヤナギ								2	2	2	2	1	5	定着・除去実施
キバナカワラマツバ								1	1	1	1	1	5	定着・除去実施
クサイ								1				1	2	
ゴマナ	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	12	定着・除去実施
シロツメクサ				1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	定着
スギナ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	定着
ススキ						1	1	1		1	1	1	6	定着
スズメノカタビラ		2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	11	定着
セイヨウウツボグサ(小・白花)									1	1			2	
ゼニゴケ		2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	11	定着
タニウツギ			1	1	1	1	1		2	2	2	2	9	定着・除去実施
ツボスミレ		1			1	1	2	2	1	1	1	1	9	定着
ドロノキ								1		2	2	2	4	定着
ハルジオン								1	1	1			3	除去実施
ヒメムカシヨモギ		1											1	自然消滅
ヒョウタンゴケ			2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	10	定着
ヨモギ										1			1	
外来ミナグサ				1	1	1	1	2	2	2	2	2	9	定着・除去実施
雑種ヨモギ		2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	10	定着・除去実施
種数	3	11	11	16	15	18	18	21	20	23	20	21		

出現種数は21種で、クサイが確認されたためR5年より1種増加した。外来植物が多く生育するNo.52ガキの広場上部で(表3-5-1-23)で17種、No.53ガキの広場下部(表3-5-1-24)で12種であった。No.53ガキの広場下部では、7月7日の外来種除去指導者研修で木道沿いのゴマナ、イタドリ、オノエヤナギ、キバナカワラマツバを集中して地際から刈り取りを行った。毎年研修時に除去作業を行うことでゴマナの個体数は減少してきているが、今後も継続して除去作業を行う必要がある。一方No.52ガキの広場上部では研修時に除去作業を行うことができず、調査時でもゴマナ、イタドリ、エゾノギンギシなどの繁茂が著しかった。指導者研修時だけでなく、ガキの広場を中心に除去作業の体制が作られることが望ましい。

No.55外回り分岐点(表3-5-1-26)では平成28年よりイグサが確認され、昨年までは株が成長して増加傾向にあったが、今年はヌマガヤやミノボロスゲが繁茂するのに伴い生育面積は縮小していた。来年以降もこの傾向が続くのか注意する必要がある。

令和6年度の外来植物の出現状況を調査区ごとに表3-5-1-4~28にそれぞれ示した。

調査区 No. 29 室堂ロータリー 標高 2418m



図 3-5-1-1a 擁壁の石積みに生育するイタドリとゴマナ
クサ点在

表 3-5-1-4 調査区 No.29 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	9	17	15	14	10	11
イタドリ	3	3	2	3	3	3
アイタドリ			1	1		1
オオイタドリ		2		2	1	1
スズメノカタビラ	4	2	2	2	1	1
エゾノギシギシ	1	1	1	1		
セイヨウタンポポ	3	1	1	2	2	1
フキ	2	2	2	2	2	2
オノエヤナギ	1		1	1	1	
オオバコ	3	1				
ヒメジョオン	3					
フランスギク	1					
ゴマナ		1	2	2	1	2
ミスジナガハグサ		2	1	2		
キバナカワラマツバ		1	1			
ヨモギ		3				
雑種ヨモギ			2	2	2	3
(コタニワタリ)		1	1			
オニウシノケグサ		1				
シロツメクサ		1				
ノコンギク		1				
外来ミミナグサ		1				
ヤマヤブソテツ		1				

ヨシ?			1			
バッコオノエヤナギ			1	1	1	1
ヤマホタルブクロ			1	1	1	
オオウシノケグサ				1		1
アライドツメクサ						1

【概要】 前回調査時には擁壁の石積み全体の目地をモルタルで埋める処置が行われたことにより、植物は大幅に減少したが、今回は再び多くの外来種が生育していた。

イタドリ、雑種ヨモギの頻度が高く、路面のコンクリートとアスファルトの隙間の 2 ヶ所にアライドツメクサが新たに確認された。

調査区 No. 30 立山センター車道 標高 2428m



図 3-5-1-2a 立山センター車道の全景

図 3-5-1-2b 車道路肩のミスジナガハグサ

表 3-5-1-5 調査区 No.30 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	5	8	10	8	8	10
イタドリ	3	4	1	2	2	3
セイヨウタンポポ	1	1	1	1	1	1
フキ	1	1	1		1	1
オノエヤナギ	2	2		1		
オオウシノケグサ		1	1	1	1	1
ゴマナ		1	1	1	1	1
ミスジナガハグサ		2		1	1	1
スイバ	1					
ヨモギ		3				
雑種ヨモギ			2		2	2
スズメノカタビラ			1	1	1	1
バッコオノエヤナギ			1	1		1
スギナ			1			
エゾノギシギシ			1			
外来ミミナグサ						1

【概要】イタドリは前回より増加、他には前回同様セイヨウタンポポ、フキ、ゴマナ、ミスジナガハグサなどが確認され、隣接する立山センター周辺調査区 (No.31) との境目に外来ミミナグサが1株確認された。

調査区 No. 31 立山センター周辺 標高 2470m



図 3-5-1-3a タチオランダゲンゲ、シロツメクサ 図 3-5-1-3b ゴマナ、シロツメクサ等
サが旺盛に生育（10月に除去済み）

表 3-5-1-6 調査区 No.31 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	5	9	12	12	13	14
スズメノカタビラ	3	3	1	3	4	3
フキ	2	3	1	1	2	2
セイヨウタンポポ	2	1		2	2	2
外来ミミナグサ		1	2	1	1	1
シロツメクサ		2	1	2	3	3
ミスジナガハグサ		2	3	2	2	2
イタドリ		1	1	1	1	1
ゴマナ		1	1	1	1	2
オノエヤナギ	1					1
スイバ	1					
ヨモギ		2				
雑種ヨモギ			2	1	1	1
ツメクサ			1	1		
クサイ			1			
タチオランダゲンゲ			1		1	2
バッコオノエヤナギ			1			
オオバコ				1	1	2
オオウシノケグサ				1	2	3
アライドツメクサ					1	3

【概要】出現種数の増加が続いており、今回は14種になった。これは、室堂平調査区域で最も外来種数の多い状態である。オオウシノケグサ、タチオランダゲンゲはセンター裏で増加、スズメノカタビラ、フキ、シロツメクサも多い状態が続いている。アライドツメクサは

R1年から生育が確認されて、車両の通る未舗装路や石畳の隙間などで急速に増加している。

一般客の出入りのほとんどない場所であるが、業務車両および関係者等が日常的に低地から直接出入りし、時に資材の搬入もあることから、外来植物の侵入源となっており、ここで定着・繁殖して種子の拡散源となりつつある。オオウシノケグサ、アライドツメクサなど増加している種を中心に早急に除去すべきである。（密生していたタチオランダゲンゲは、10月に除去された。）

調査区 No. 32 室堂ターミナル園地 標高 2430m



図 3-5-1-4a ターミナル園地の全景

図 3-5-1-4b 岩の隙間に繁茂するスズメノカタビラ

表 3-5-1-7 調査区 No.32 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	6	8	10	13	10	10
イタドリ	3	3	2	1	1	1
スギナ	3	3	2	2	2	2
スズメノカタビラ	3	2	2	1	1	2
セイヨウタンポポ	1	1	1	1	1	1
エゾノギシギシ	1			1	1	
オオバコ	3	1		1		1
ヨモギ		3		2		
オノエヤナギ		1				
オオイタドリ		1				
アイイタドリ			1	1		1
雑種ヨモギ			1	2	1	1
ゴマナ			1	1	1	1
ミスジナガハグサ			2	1	1	2
ヤマクマバナ			1	1	1	
オオウシノケグサ				2	2	1

【概要】 前回確認された種のうち、エゾノギシギシ、ヤマクマバナは確認されず、またイタドリやセイヨウタンポポは数が少なくなっており、除去の効果が出ていると考えられた。

調査区 No. 33 室堂平広場遊歩道 標高 2431m



図 3-5-1-5a 調査区全景



図 3-5-1-5b ミスジナガハグサ

表 3-5-1-8 調査区 No.33 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	8	8	8	11	8	10
イタドリ	3	3	2	1	1	1
オオイタドリ		1	1	1		
スズメノカタビラ	2	1	2	1	1	1
セイヨウタンポポ	3	1	1	2	1	1
シロツメクサ	2		1	1	1	1
オオバコ	1		1	1	1	1
オノエヤナギ	2	1				
スイバ	1					
スカシタゴボウ	1					
ゴマナ		2	1	1	1	1
オオウシノケグサ		1		3	2	1
ヨモギ		2				
雑種ヨモギ			1	1	1	1
ミスジナガハグサ				1		1
フランスギク				1		
アライドツメクサ						1

【概要】ミスジナガハグサを再確認、アライドツメクサはセンター車道の境目に初めて確認された。イタドリは植生の中に生育しており、除去活動は行われているものの生育を抑えるまでには至っていない。セイヨウタンポポは前回より減少していた。

調査区 No. 34 室堂平広場遊歩道 標高 2437m



図 3-5-1-6a 全景



図 3-5-1-6b セイヨウタンポポ

表 3-5-1-9 調査区 No.34 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	4	8	7	6	6	6
イタドリ	3	2	1	1	1	1
スギナ	3	1	1	1	1	1
セイヨウタンポポ	1	1	2	1	2	1
スイバ	2					
エゾノギシギシ		1				
ゴマナ		1	1	1	1	1
スズメノカタビラ		1	1	1	1	1
ヨモギ		1	1			
スイバ×タカネスイバ		1	1			
雑種ヨモギ				1	1	1

【概要】今回確認された種数は前回と同じ6種であり、新たに確認された種はなかった。

供養塔広場東側の園路沿いに見られたセイヨウタンポポは、7月28日の外来種除去指導者研修時に除去作業を行い、個体数は激減した。この場所にはセイヨウタンポポとミヤマタンポポが混在し、総苞外片が水平に開くタイプのミヤマタンポポが見られ、雑種を形成している可能性がある。これらの判別方法と除去は今後の課題である。

調査区 No. 35 供養塔広場 標高 2437m



図 3-5-1-7a 全景



図 3-5-1-7b スズメノカタビラは前回よりかなり減

表 3-5-1-10 調査区 No.35 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	3	6	4	4	6	3
スズメノカタビラ	2	3	3	3	3	2
セイヨウタンポポ	1	1	1	1	1	1
ゴマナ		2	1	1	1	
イタドリ		1	1	1	1	
スギナ		1			1	1
ヨモギ		1				
スイバ	1					
雑種ヨモギ					1	

【概要】 前回からゴマナ、イタドリ、雑種ヨモギが見られなくなり、またベンチ周辺などの砂利敷きに多く生育していたスズメノカタビラもかなり減少した。これは、2024年夏の気温が相当高い状態が長く続いたことにより、スズメノカタビラの生長が止まるか地上部が枯れたことによる結果だと推定される。

調査区 No. 36 みくりが池展望台 標高 2434m



図 3-5-1-8a 調査区全景



図 3-5-1-8b 石垣の隙間にヤマホタルブクロ



図 3-5-1-8c 数少ないが石垣の隙間にみられたゴマナ

表 3-5-1-11 調査区 No.36 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	4	4	5	4	2	4
スズメノカタビラ	3	2	2	2	1	1
セイヨウタンポポ	2	1	1	1	2	1
ゴマナ		1	1			1
オノエヤナギ	1					
スイバ	1					
ヤマホタルブクロ		1				1
雑種スイバ			1			
オオバコ			1	1		
オオウシノケグサ				1		

【概要】出現種数は4種と増加し、ゴマナ、ヤマホタルブクロはわずかに見られたのみで、除去活動の成果が出ていると考えられた。

調査区 No. 37 みくりが池遊歩道 標高 2420m



図 3-5-1-9a 調査区景観



図 3-5-1-9b 園路ふちに見られるスズメノカタビラ

表 3-5-1-12 調査区 No.37 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	5	7	6	6	8	8
スズメノカタビラ	2	2	1	1	2	2
セイヨウタンポポ	2	1		1	1	1
イタドリ	1		1	1	1	1
バッコオノエヤナギ		1	1	1		
オオウシノケグサ		1		2	1	1
オオバコ		1		1	1	1
スイバ	1					
オランダミミナグサ	1					
外来ミミナグサ		1	1		1	1
ヨモギ		1	1			
ゴマナ			1		1	1
ミスジナガハグサ					1	
雑種ヨモギ						1

【概要】 前回見られたミスジナガハグサはなくなり、雑種ヨモギが新たに確認された。スズメノカタビラは依然として園路沿いに生育していた。

調査区 No. 38 地獄谷への道 標高 2390m



図 3-5-1-10a 地獄谷へ降りる遊歩道入口の
通行止め案内

表 3-5-1-13 調査区 No.38 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	2					
イタドリ	1					
スズメノカタビラ	1					

【概要】2014年（平成26年）より地獄谷への遊歩道の立入が禁止されているため、今回も調査を行っていない。

調査区 No. 39 室堂山荘遊歩道 標高 2438m



図 3-5-1-11a 調査区域の景観



図 3-5-1-11b 園路ふちに見られるゴマナ

表 3-5-1-14 調査区 No.39 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	3	7	7	5	6	5
スズメノカタビラ	2	2	2	1	1	1
セイヨウタンポポ	1	1	1	1	1	1
スイバ	2					
ゴマナ		3	1	1	1	1
イタドリ		1	1	1	1	1
(ハンゴンソウ)		1	1	1	1	1
ヨモギ		1				
オオウシノケグサ		1			1	
雑種ヨモギ			1			
雑種スイバ			1			

【概要】 オオウシノケグサが見られなくなり、またスズメノカタビラ、ゴマナの頻度は低く抑えられており、イタドリも園路沿いの 2ヶ所のみで、除去作業の効果と考えられた。在来種のハンゴンソウは園路中央部に 1 群れ見られた。

調査区 No. 40 室堂山荘遊歩道 標高 2449m



図 3-5-1-12a 調査区域の全景



図 3-5-1-12b 初確認のアライドツメクサ（直後に除去された）

表 3-5-1-15 調査区 No.40 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	6	6	3	3	4	7
イタドリ	2	2	2	1	1	1
スズメノカタビラ	3	1	1	1	1	1
スギナ	1	1	1			1
オノエヤナギ	1			1		
セイヨウオダマキ	1					
スイバ	2					
オオウシノケグサ		1				
セイヨウタンポポ		1				1
ヨモギ		1				
ゴマナ					1	1
アヤメ属 sp.					1	
ミスジナガハグサ						1
アライドツメクサ						1

【概要】 前回確認されなかったスギナ、セイヨウタンポポを再確認、ミスジナガハグサ、アライドツメクサが初確認された。イタドリやスズメノカタビラの頻度は低く抑えられており、除去作業の効果は出ていると考えられる。アライドツメクサは遊歩道沿いにあるターミナル側から 5 つ目のテーブルの近くで見られ、急速に生育地を増加させており、この場所だけではないが早急な除去が必要である（9月に除去済み）。また前回室堂山荘前で確認されたアヤメ属 sp. は翌年には見られなくなった。

調査区 No. 41 室堂山荘横 標高 2457m



図 3-5-1-13a 室堂山荘景観



図 3-5-1-13b 室堂山荘前の石畳の隙間にスズメノカタビラ

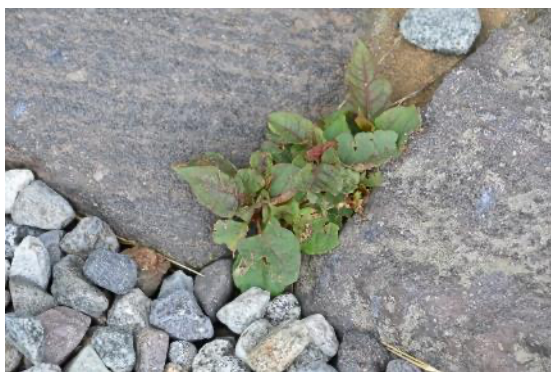


図 3-5-1-13c 石畳の隙間にわずかにイタドリ

表 3-5-1-16 調査区 No.41 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	4	4	2	3	4	3
スズメノカタビラ	3	3	3	3	3	3
イタドリ	1	1		1		1
オオバコ	1					
スイバ	1					
ヨモギ		1				
オオウシノケグサ		1			1	
ゴマナ			1	1		
セイヨウタンポポ					1	
外来ミミナグサ					1	1

【概要】 スズメノカタビラは石畳の目地に生育していたが、前回よりはやや減少した。イタドリはわずかに見られるのみで除去作業の成果が出ていると考えられた。

調査区 No. 42 玉殿岩屋への道 標高 2450m



図 3-5-1-14a 調査区全景



図 3-5-1-14b 同所的に見られるミヤマタンポポ
(下) とセイヨウタンポポ (上)

表 3-5-1-17 調査区 No.42 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	2	1	1	0	2	1
スズメノカタビラ		1	1		1	
セイヨウタンポポ	3				1	1
スギナ	2					

【概要】登山道が荒れており、一般の立ち入りは制限されていた。ミヤマタンポポ群落と隣接してセイヨウタンポポが2個体生育していた

調査区 No. 43 エンマ台 標高 2413m



図 3-5-1-15a 調査区エンマ台景観。



図 3-5-1-15b 再確認されたノアザミ

表 3-5-1-18 調査区 No.43 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	6	5	5	6	6	6
スズメノカタビラ	3	3	1	1	2	2
イタドリ	3	2	2	2	1	1
(カノコソウ)	1	1	1	1		
オランダミミナグサ	2					
セイヨウタンポポ	1				1	
ヨモギ		1				
ゴマナ			1		1	1
エゾノギシギシ				1		
オオウシノケグサ				2	2	2
バツコオノエヤナギ				1	1	
ノアザミ	3	1	1			1
雑種ヨモギ						1

【概要】調査区内には多くのイタドリが生育するが、みくりが池温泉前の石段脇や地獄谷側斜面に見られるイタドリは、節間が短く種子も大きいことから地獄谷に由来する在来種と判断されることから、この分を除いて判定した。エンマ台にはオオウシノケグサが増加、またノアザミが確認された。

調査区 No. 44 みくりが池遊歩道 標高 2420m



図 3-5-1-16a 調査区景観。



図 3-5-1-16b 血の池側斜面にゴマナとフキ

表 3-5-1-19 調査区 No.44 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	9	8	8	8	9	6
オノエヤナギ	3	3	3	2	1	
スズメノカタビラ	2	2	1	1	2	2
フキ	1	1	1	1	1	1
イタドリ	2	1		2	2	1
オオバコ	1			1	1	
オオウシノケグサ		2	2	2	2	2
外来ミミナグサ		1	1			
ヨモギ		3				
雑種ヨモギ			1	2	1	1
ノアザミ	3	1				
オニウシノケグサ	2					
オランダミミナグサ	2					
エゾノミツモトソウ	1					
ゴマナ			1		1	1
バッコオノエヤナギ			1	1	1	

【概要】オノエヤナギ、オオバコ、バッコオノエヤナギは確認されず、前回より3種減少した。スズメノカタビラは園路の石畳の隙間に生育していた。血の池側斜面の園路沿いにゴマナとフキが生育しており、増加しないよう注意が必要である。

調査区 No. 45 ミドリガ池遊歩道 標高 2435m



図 3-5-1-17a 調査区の景観

図 3-5-1-17b ミヤマアカバナと混生するスズ
メノカタビラ

表 3-5-1-20 調査区 No.45 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	9	4	8	9	10	11
スズメノカタビラ	2	2	2	2	2	2
フキ	2	1	1	1	1	1
外来ミミナグサ		1	1	1	1	1
ノアザミ	1	1	1			
エゾノギシギシ	1					
セイヨウタンポポ	1			1	1	1
オノエヤナギ	1			1	1	1
スイバ	1					
セイヨウオダマキ	1					
オオバコ	1				1	1
雑種ヨモギ			1			
ゴマナ			1	1	1	1
クサイ			1			
オオウシノケグサ			1	1	1	1
イタドリ				1	1	1
バッコオノエヤナギ				1	1	1
アライドツメクサ						1

【概要】前回同様スズメノカタビラ、フキ、外来ミミナグサ、セイヨウタンポポなどが確認されたほか、新たにアライドツメクサが石畳の隙間に見られた。

調査区 No. 46 ミドリガ池広場 標高 2435m



図 3-5-1-18a 調査地全景。



図 3-5-1-18b ゴマナ

表 3-5-1-21 調査区 No.46 の外来植物の出現状況

調査年	H21	H24	H27	H30	R3	R6
種類数	4	4	6	6	4	5
スズメノカタビラ	2	2	2	1	1	1
オノエヤナギ	1	1	1	1	1	1
エゾノギシギシ	1		1	1		1
ゴマナ		1	1	1	1	1
ノアザミ	1					
ヨモギ		1				
雑種ヨモギ			1	1		
オオイタドリ			1	1	1	1

【概要】エゾノギシギシが再確認された。またベンチや歩道沿いにスズメノカタビラ、オオイタドリ、ゴマナがみられた。

調査区 No. 51 弥陀ヶ原遊歩道 ホテルと休憩所の間地点 標高 1920m



図 3-5-1-19a 全景



図 3-5-1-19b 萌芽したタニウツギ

表 3-5-1-22 調査区 No.51 の外来植物の出現状況

調査年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
種類数	1	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2
ゴマナ	3	2	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1
タニウツギ			1	1	1	1	1		1	1	1	1

【概要】木道脇にゴマナとタニウツギが見られた。歩道管理に伴う不定期の草刈り等により、外来種の生長は抑えられている。

調査区 No. 52 弥陀ヶ原遊歩道 ガキの広場上部 標高 1915m



図 3-5-1-20a 調査区景観



図 3-5-1-20b 敷設から 12 年経過したヤシマ
ット

表 3-5-1-23 調査区 No.52 の外来植物の出現状況

調査年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
種類数	2	10	10	10	9	10	12	16	16	17	16	17
ゴマナ	1	3	2	2	2	3	3	2	3	3	2	2
イタドリ	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
オオイタドリ		1	1	1	1	1	1					
ゼニゴケ		4	4	3	2	2	2	1	1			
オオバコ		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
スズメノカタビラ		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1
アイイタドリ		1	1	1		1	1	1	1	1	1	1
雑種ヨモギ		1		1	1	1	1	2	2	1	1	1
エゾノギシギシ		1	1					2	1	1	1	1
スギナ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ヒョウタンゴケ			2	2	2	2	3	2	1	1	2	1
ツボスミレ		1					2	2	1	1	1	1
バッコオノエヤナギ						1	2	2	1	1	1	
外来ミミナグサ								2	1	1		1
オノエヤナギ								1		1	1	1
タニウツギ								1	1	1	1	1
シロツメクサ								1	1	1	1	1
セイヨウウツボグサ									1			
ヨモギ										1		

ドロノキ										1	1	1
ススキ											1	1
クサイ												1

【概要】 出現種数の増加が続いている。これは、ヤシマット被覆処理を行った部分に多様な植物が侵入してくるためで、外来植物の種類は、弥陀ヶ原大駐車場やバス停、弥陀ヶ原ホテル前などの出現種と共通している。弥陀ヶ原においては、ヤシマット敷き処理が不適切であることが明白となったと言える。なお、ゼニゴケは R4 年以降確認されておらず、発生から 8 年程度で消滅したものと考えられる。

昨年までは 7 月の外来植物指導者研修で除去作業を行ったが、今年は行っていない。除去効果を把握するためにも定期的な除去作業を行う体制が必要である。

調査区 No. 53 弥陀ヶ原遊歩道 ガキの広場下部 標高 1910m



図 3-5-1-21a 全景 ミヤマハンノキ大型化



図 3-5-1-21b 木道沿いのゴマナ



図 3-5-1-21c 下部に残存するゼニゴケ



図 3-5-1-21d 下部木道縁のキバナカララマツバ

表 3-5-1-24 調査区 No.53 の外来植物の出現状況

調査年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
種類数	3	8	6	11	11	13	15	17	12	14	12	12
イタドリ	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1
ゴマナ	1	3	4	2	2	3	3	3	2	2	1	1
オオバコ	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1
エゾノギシギシ		1		2		1	1					
スズメノカタビラ		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雑種ヨモギ		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1
ヒメムカシヨモギ		1										
ゼニゴケ		4	4	3	3	2	2	1	1	1	1	1
ヒョウタンゴケ			3	2	1	1	2	1	1	1	2	1
外来ミミナグサ				3	2	2	1	1	1	1	1	2
シロツメクサ				2	1	1	2					

オノエヤナギ				1	1	1	1	2	1	1	1	1
ツボスミレ					1	1	1	1				
ススキ						1	1	1		1		
バッコオノエヤナギ							2	2	1	1	1	1
ドロノキ							1	1		1	1	1
クサイ								1				
アイイタドリ								1				
ハルジオン								1	1	1		
キバナカワラマツバ								1	1	1	1	1

【概要】前調査区同様、ヤシマット敷設処理が行われた場所であるが、整備後 12 年経過し、外来植物の増加が近年見られなくなっている。ただし、ゼニゴケとヒョウタンゴケがまだ水はけの悪い場所に残存している点には注意が必要である。前回同様、確認された外来植物はイタドリ、ゴマナ、オオバコ、外来ミミナグサなど 12 種であるが、自動車等の入らない弥陀ヶ原湿原の中で、隣接の調査区 No. 52 と本調査区だけが際だって種数の多い状況が続いていることは問題である。

7月の外来種除去指導者研修で木道沿いのゴマナ、オノエヤナギ、イタドリ、キバナカワラマツバを集中して地際から刈り取りし、キバナカワラマツバは 1 株のみとなった。毎年研修時に除去作業を行うことで、ゴマナの個体数は減少しており、今後も継続して除去作業を行う必要がある。

調査区 No. 54 弥陀ヶ原遊歩道内回り分岐点から各 5 m 標高 1895m



図 3-5-1-22a 全景



図 3-5-1-22b 今回も確認されたゴマナ

表 3-5-1-25 調査区 No.54 の外来植物の出現状況

調査年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
種類数	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1
イタドリ	2	1	1	1	1	1	1					
ゴマナ						1	1	1	1	1	1	1

【概要】イタドリはR2年7月のナチュラルリスト研修時に除去したのち再生していない。
ゴマナは小さい個体が確認された。

調査区 No. 55 弥陀ヶ原遊歩道外回り分岐点各 10m 標高 1863m



図 3-5-1-23a 全景



図 3-5-1-23b 減少したイグサ

表 3-5-1-26 調査区 No.55 の外来植物の出現状況

調査年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
種類数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
イグサ					2	2	3	2	2	2	2	1

【概要】昨年まではイグサは増加傾向であったが、今年は在来種のヌマガヤやミノボロスゲに押されて縮小していた。